

平成30年度 兵庫自治学会研究発表大会 優秀発表者等

各分科会で発表のあった研究のなかから、当該分科会のコーディネーター及びアドバイザーが優秀発表者を選定した（第1分科会は該当者無し）。そのうち選考委員（山下、加藤代表運営委員）が特に兵庫自治学会としてふさわしい優秀な研究と認めた1件を兵庫自治学会賞に決定した。

【兵庫自治学会賞】

分科会	発表者及びテーマ	選考理由
第2分科会 農政環境	杉本 琢真 (兵庫県立農林水産技術総合センター) テーマ:酒米新品種を用いた酒米の生産安定と地域の活性化及び海外輸出用の日本酒新製品の開発支援 ～次世代酒米コンソーシアムの取組～	<ul style="list-style-type: none"> ・酒米新品種の開発から日本酒新製品の開発、海外輸出というプロジェクトをめぐる盛りだくさんの内容を手際よくまとめており、その構成も的確でコンパクトでありながら専門を異にする者や一般の市民が読んでわかりやすく説得力があり、優れた論文と評価できる。 ・本論文の貢献は、研究室やフィールドでの発見にとどまらず、地元企業との連携から地域経済に具体的に貢献するプロセスを示したところにもある。こうした「刺激」は、地域産業にイノベーションを生起させ、その「進化」を現実のものにしていくことになるだろうし、おそらく、酒米にとどまらず、課題に直面する地域産業全体に多くの示唆を与えてくれるものと思われる。

【優秀賞】

分科会	発表者及びテーマ	選考理由
第3分科会 教育・防災	中野 佳和 (兵庫県立尼崎高等学校) テーマ:大正期における学歴社会の形成過程と学校教育の意義 ～兵庫県を対象に～	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの背景となる史的事実をきちんと押さえ、研究の理論的な枠組みを頭に置きながら、一次史料に基づいて考察や議論を展開しており、しっかりとした歴史研究である。しかもそこに込められた主張は現在の高校教育の抱える問題点の指摘にもつながるもので、一次史料を論拠にしていることで、説得力の高いものとなっている。 ・発表内容がよく整理され、随所に見やすく分かりやすくするための工夫もなされていて、見ごたえ、聞きごたえのあるものに仕上がっている。

【特別賞受賞者（2件）】

分科会	発表者及びテーマ	選考理由
第2分科会 農政環境	上田 尚男 (グループ「もったいない」) テーマ:日本の食品ロス問題	<ul style="list-style-type: none"> ・発表そのものはオリジナリティに欠ける面があるもののよくまとまっており、課題に立ち向かおうとする姿勢も評価できる。 ・本来公共が考えることを市民が考え、実践しており、「みんなの食堂」活動は興味深く、今後の研究の進展も期待できる。
第4分科会 地域振興 (学生の部)	神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部中国語コース 大濱ゼミ(代表者:藪内 彩乃) テーマ:みなと神戸多文化共生プロジェクトー南京町生誕150年を迎えてー	<ul style="list-style-type: none"> ・単なる南京町の活性化の取組提案ではなく、多文化共生の観点から南京町の歴史・現状・将来を見ようとしている。 ・学生ががんばってフィールドワークやヒアリングを行い、あるいは、自分たちなりのコンテンツ開発の取組を行っていることも評価できる。